

災害への備え

近年、全国各地で発生している自然災害で学んだことは、「自分だけは大丈夫」という油断からくる災害への備えの弱さとともに、地域のつながりの大切さです。

災害はある日突然起こります。日ごろから、防災意識を高め、いざというときの備えをしておくことが必要です。

地震発生前の対応

- 家や塀の強度を確認し、必要に応じて補強しておく。
- 家具などの転倒防止対策。
- 非常持ち出し品、備蓄品の準備。
- 避難場所、避難路の確認。

地震発生時の行動

- とにかく、頑丈な机の下などに潜り込み、身の安全を図り、揺れが収まるまで様子を見る。

地震直後の行動

- 慌てずに落ち着いて行動する。
- 火の元の確認、初期消火。
- 窓や戸を開け出口を確保する。
- 慌てて外に飛び出さない。
- 門や塀には近寄らない。

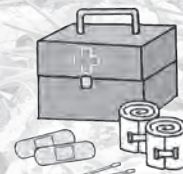
【日ごろから準備しておきたい物の一部】



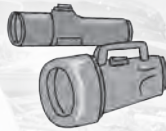
飲料水
(1人1日3リットルが目安)



食料3日分



救急医療品、常備薬



懐中電灯



携帯ラジオ、電池



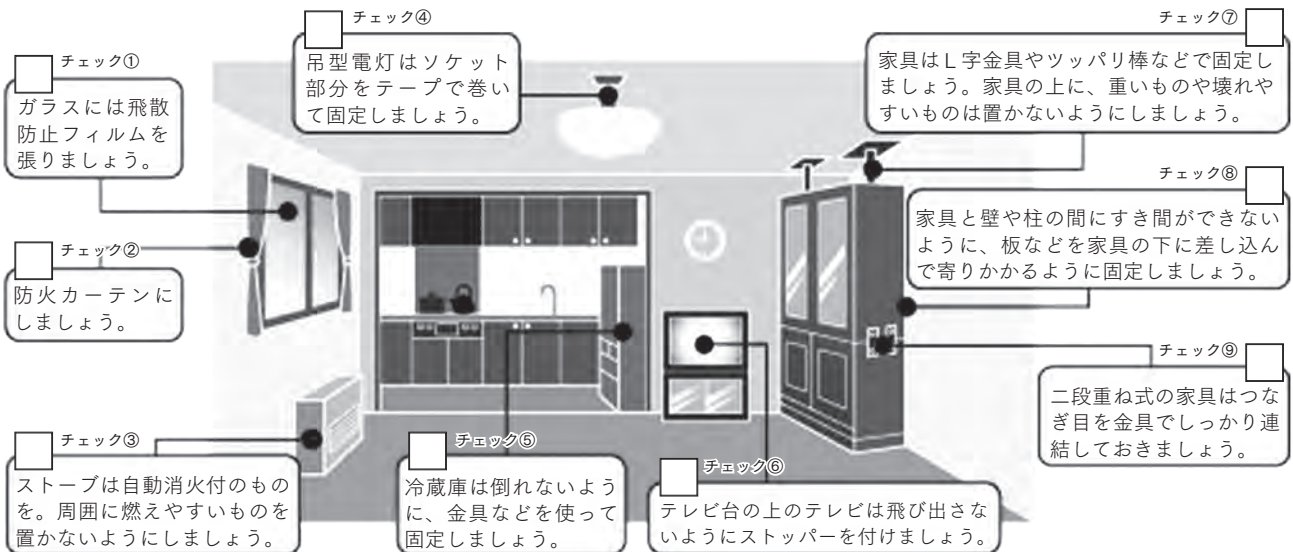
お金、貴重品、下着、防寒具など

地震後の行動

- 正しい情報入手するよう心掛ける。
- 家族の安全が確認できたら、ご近所の安否を確認する。
- 近隣住民と協力し合って救出、救助をする。
- 避難の前には、電気、ガスの元栓を閉めたかを確認する。

地震に備えておくべき事

地震に備えて、「落下・転倒防止対策」「火災防止対策」「身の安全対策」を行うために、各家庭で家の中の安全チェックをしてみましょう。



家の周りも確認しましょう！！

- アンテナや瓦の補強をしましょう。
- 植木鉢などの整理整頓をしましょう。
- ガスボンベなど、転倒の恐れがあるものは鎖などで固定し、動かないようにしましょう。
- ブロック塀や門柱は倒れないように補強し、ひび割れや鉄筋のサビも修理しましょう。

避難は落ち着いて、安全に

市では、気象庁から発表される気象情報や雨が降り始めてからの降水量、今後の降雨予想などを基に、市民の皆さんへ避難情報として、「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」を、下図のような経路で伝達します。

避難情報が伝達されたときは、洪水や土砂災害といった災害が発生する危険がありますので、下図のとおり、ただちに避難の準備や行動に移ってください。

また、大雨などの際には、テレビやラジオなどからの情報も確認していただき、気象情報に注意しながら行動してください。

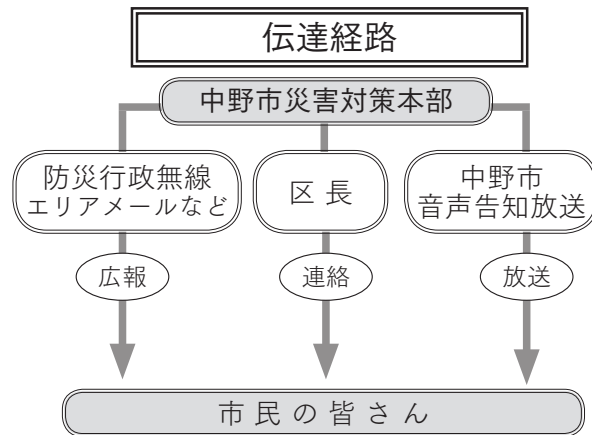
昨年2月に全戸配布した防災ガイドブックを、家族の皆さんで再度確認していただき、日ごろから災害時への備えをしておきましょう。

問い合わせ先
危機管理課危機管理防災係
285・286
(22) 2111 (内線)

避難情報の伝達経路と行動の目安

本市では、避難準備情報・避難勧告・避難指示を次のような経路で市民の皆さんに伝達します。伝達の種類により準備や行動に移ってください。

種類	住民の皆さんの行動の目安
避難準備情報	高齢者や障がい者など、避難に時間を要する方は避難を開始する。一般の方は避難の準備を開始する。ただし、状況によっては自主避難を開始する。
避難勧告	避難の開始。
避難指示	直ちに避難する。避難所までの移動に危険が伴う場合には、生命を守る最低限の行動をとる。



避難時の注意事項

災害時の避難は、普段通っている道でも、足元が見えないことが多いので慎重に歩きましょう。また、頭上からの落下物や飛来物にも十分注意しましょう。

いざという時、慌てないためにも、どこへの道を通って避難するのかを普段から家族や近隣の方同士で話し合っておきましょう。

point ①



避難場所や避難路の確認をしましょう。

point ②



非常持出品はなるべく少なくする。

point ③



垂れ下がった電線にさわらない。

point ④



火の始末、戸締りを忘れずに。

point ⑤



気象・地震などの情報に注意しましょう。

point ⑥



家に避難先や安否情報など、メモを残しましょう。

point ⑦



車の使用は避けて徒歩で避難しましょう。

point ⑧



お年寄りや子どもが安全に避難できるよう協力しましょう。